

会 議 録				
平成27年度第4回 生活支援事業協議体	日 時	平成28年3月29日(火) 14時00分～16時00分	場 所	小金井市役所 第2庁舎 802会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長(東京学芸大学) 近江屋委員(ボランティアセンター) 阿久津委員(地域福祉コーディネーター) 清水民生委員(民生委員児童委員協議会) 高橋尚子委員(さくら体操リーダー) 第2層コーディネーター 鈴木氏(小金井きた地域包括支援センター) 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 高橋徹氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 中村氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	本木包括支援係長、萩主事(介護福祉課)、本山(第1層コーディネーター)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1)報告事項				
① 第2層協議体の開催要件の整理(開催主体・主催)				
② 第1層・第2層の活動記録				
③ 「介護サービス情報の公表システム」の活用状況				
(2)協議事項				
① 活動の評価について(事業全体・各圏域での動き)				
② 地域資源のリスト化について(内部資料用・情報提供用)				
③ (にし地域)現在の動きと今後の展開について				
(3)次回協議体の開催予定				
3 閉会				

1 開会

2 議題

(1) 報告事項

① 第2層協議体の開催要件の整理（開催主体・主催）

（萩主事）

協議体とは市が主体となり各地域におけるコーディネーターと生活支援・介護予防サービスの提供主体等が参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場として、中核となるネットワークという定義がございますので、前回話題に上がった社協さん主催の地域住民懇談会などについては、2層の協議体にはならないという整理を1点、させていただきます。

② 第1層・第2層の活動記録

（本山）

本年度は市主催ということでコアメンバーでの連携会議を8回ほど開催させていただきました。同じように、2層の活動記録もまとめていくことにいたしましたので、改めて御報告させていただきます。

③ 「介護サービス情報の公表システム」の活用状況

（本山）

これまでに8カ所、さくら体操の実施状況に関しまして、入力を済ませております。今後さらに、配食ですとか送迎サービスなども含めて入力をしていく予定でおります。

(2) 協議事項

① 活動の評価について（事業全体・各圏域での動き）

（高良委員長）

今後、活動の評価をしていかなければいけないということになると思いますが、タスクゴール、プロセスゴール、リレーションシップゴールという視点で見ているかどうかというのが、地域の評価においてはよく言われているところです。

ニーズがどれだけ充足できたのか、それに対してどれだけの満足度があるのか、居場所なら居場所ができました、何カ所できた、1カ所の居場所につき何人が利用しま

したとかというのが、要はタスクゴールになるわけです。そのタスクゴールに至るまでにどんどん進めていくためには、小さな成果を確認しながらやっていく、小さな目標というものも入れ込んでいくということが重要になると思います。

同時に、その過程の中で見えてくるゴールというものがあるわけで、例えばネットワークがどれだけできたかということ、どういう方々がこの活動に入ってきたか、そこに至るまでの間にどれだけやりがいを感じられたかというようなこともプロセスゴールに入ってくると思います。

それと同時に、実際にやっていく中での関係性がどう構築されてきたか、どう変わっていったかという部分、対等性というものがどこまで確保できているかみたいなどころをあわせて見ていくという方法もあっていい。量的なもの、質的なものをあわせて評価をしていく視点が必要になってくるのではないかと思います。

(中村氏)

満足度とか、目に見えない評価は難しいですね。結局、数字というか。

(高良委員長)

5件法などでとるしかないのです。活動の中とかで、利用されている方の声を拾うとか。ニーズをまず明確にした上で、そのニーズが充足されているかどうかを明確に把握する、評価するための指標みたいなものをつくっていかなければいけないと思います。できればどこか1カ所、ニーズが明確になっているところの評価項目をつくってしまって、一度やってみるのが一番いいのではないかと思います。

②地域資源のリスト化について（内部資料用・情報提供用）

(本山)

資源情報を、関係者内部で活用する資料と、それから、市民の方に情報提供できるような成果物にしていきたいと思っています。平成28年10月に認定更新を迎える利用者さんへの情報提供のためには、6月ごろには作成しておく必要があるため、暫定版を作成させていただこうと思っています。

(阿久津委員)

暫定版ということでやるのであれば、使ってみて意見を下さいというのはどうですか。それを集約した上で正式バージョンをつくるのが一番ニーズに合っていると思うのです。

(高良委員長)

できれば男性もこられるようなものがないかと。例えばこのPRのところ、男性が多いところは、男性の方も多数いらっしゃいますので、どうぞなどと書いたらどうですか。

(高橋徹氏)

住所とか電話番号の下のところに、例えば自由に参加してくださいとか、統一で入っていたほうが、見たときには見やすいのかなという気はします。

(清水委員)

私だったら、副題は「あなたのために」とか、呼びかけるような形がいいかなと思います。一言でぱっと相手の心を打つような、それが大事ではないかと思うのです。

(高橋尚子委員)

何か「つながろう」とか「生き生き」とか「元気」とか、そのような言葉が。

(高良委員長)

そうですね。では「シニアのための地域とつながる応援ブック」暫定版はこれでいって、いろいろな御意見をいただきました改良していくということで、よろしいでしょうか。

③ (にし地域) 現在の動きと今後の展開について

(雨宮氏)

やはり社会資源調査がもっと詳しく必要だということに行き着き、生活支援コーディネーター1人だけでなく、高齢者の視点が必要だねということ所内で話し合いました。市民協働支援センター、ボランティアセンター、ファシリテーターの方々にも今後協力をお願いしたいと考えております。

みんなで町を歩く、健康増進のため、介護予防のための町歩きはどうかという提案がなされました。歩いている中で、災害時のルート確認にもなるのではないかという意見も出ております。同時にお散歩マップをつくることによって、立ち寄りどころとか、商店街の活性化にもなるのではないかというお話も出ております。

戸惑っているところは、目標をどこに設定したらいいかです。

(高良委員長)

今、一番これが必要だよと出てきたものはどれですか。

(雨宮氏)

気軽に立ち寄れる場所が欲しいということです。空き家活用などの意見も出たのですが、地域にある公共の場所をいろいろと調査いたしました。

(高良委員長)

ということは、居場所を探していくというか、既存社会資源の活用をするというのが目標になるということですね。公共以外に営利関係なく使える場所は思い浮かびますか。いろいろ地域で活動されている場所というものでも居場所となっていくという捉え方で、社協の方と共有をしていただくことは可能ですか。

(近江屋委員)

私は人がいればそこが居場所になるような気がしていて、気軽に立ち寄れて自宅から近い場所といったら、町会とか集会所とかも利用できるのではないのでしょうか。

(高良委員長)

公共の場所以外でも居場所となり得るような場所があるということですので、社協さんと情報を共有していただいて、一緒にみんなで見に行こうみたいな話になれば、マップづくりにつながっていくのではないかと思いますし、その際には、地域の主立った方なども一緒につくっていただいたほうが、一段と居場所の活用につながっていくのではないかと思います。ほかには、交通の便に関しては。

(萩主事)

交通の便のところですが、高齢者福祉及び障害者福祉のためにベンチの設置が必要であるという要望書などがあれば、それを根拠の一つとして所管課が設置について具体的な検討ですとか、予算組みをすることが進めやすくなるので、そういった形にしていきたいです。

(高良委員長)

まずはいろいろな声を聞いていただいて、必要があるかどうかの確認をお願いいたします。

(3) 次回協議体の開催予定

(高良委員長)

来年度、第1回目の協議体は6月3日、金曜日の2時から4時ということで、よろしくをお願いいたします。

3 閉会